

情報通信審議会 情報通信技術分科会 局所吸収指針委員会
局所吸収指針作業班(第3回) 議事要旨(案)

1 日時

平成22年3月26日(金) 10時30分～12時00分

2 場所

総務省第2会議室(総務省地下1階)

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

多氣 昌生(主任)、上村 佳嗣、池畑 政輝、牛山 明、佐藤 康仁、
藤原 晴海、西方 敦博、和氣 加奈子、平田 晃正

(2) オブザーバ

渡邊 聡一(比吸収率測定方法作業班 主任)

(3) 事務局

齊藤課長補佐、稲垣係長、川名官

4. 議事

(1) 前回の議事要旨(資料一指針3-1)について、修正意見があれば、後日事務局
あて連絡することとして了承された。

(2) 西方構成員より、資料一指針3-3に基づき説明があった。

(3) 平田構成員より、資料一指針3-4に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり。

多 氣主任：今回、電磁界強度指針の適応距離の条件の変更について検討したが、理想的な測定器があったとしても、すくなくとも1cmに変えることは困難であるということか。

西方構成員：そのとおりである。

多 氣主任：温度上昇をシミュレーションする時のセルの大きさはどう設定したのか。

平田構成員：1mm×1mm×1mmのセルとしている。

上村構成員：例えば、10gの平均化質量の場合、10gの中心のセルの温度上昇を使っているとのことだが、周りのセルの温度も計算しているか。

平田構成員：中心のセルを基準にすべてのセルの温度上昇も計算している。周辺セルは、中心のセルとの温度の相関を計算している。

渡邊オブザーバ：平均化質量を検討するとき立方体の形状で平均しているが、それ以外の形状で平均したとするとどうか。

平田構成員：熱の拡散を考えた場合、立方体が一番適切な形状である。

(4) 多氣主任より、局所吸収指針の検討事項の検討結果について、資料—指針3—5に基づき、説明があった。

多 氣主任：本日の議論を踏まえると、局所吸収指針の上限周波数を3GHzから6GHzへ変更することが最も適切であると言える。

(5) その他

次回作業班の開催日程は別途調整の上、事務局より連絡することとなった。

【配付資料】

- 資料—指針3—1 情報通信審議会情報通信技術分科会局所吸収指針委員会局所吸収指針作業班（第2回）議事要旨（案）
- 資料—指針3—2 局所吸収指針の検討事項
- 資料—指針3—3 西方構成員提出資料
- 資料—指針3—4 平田構成員提出資料
- 資料—指針3—5 多氣主任提出資料